

パシフィックシステム株式会社

平成22年3月期 決算説明会

平成22年6月18日

代表取締役社長 増古 恒夫

©2010 Pacific Systems Corporation All right reserved



- 平成22年3月期連結決算概況
- 今後の経営方針
・12中期経営計画

©2010 Pacific Systems Corporation All right reserved

- 2 -



平成22年3月期 連結決算概況

▶ 減収・増益となりました

連結決算概況

平成22年3月期 トピックス

主なIR情報

- ◆ 10月1日 株式会社システムベースが株式会社リンクを吸収合併
- ◆ 1月1日 株式会社ソーシャルネットと事業譲受契約を締結し、従業員及び一切の事業を譲受し、当社中部センターを開設（名古屋市中区）

連結決算概況

平成22年3月期 トピックス

商品・サービス

O E L D (有機ELD) 画像検査装置 (PV-EL Dorado Evo.)
 全周囲果実外観センサー (今年5月発表)
 いつでも・どこでも業務遂行可能な高セキュリティシステム
 (商標登録: どこでもわ~KING)
 生コンクリート業界JIS改正向け製品群
 CRMパッケージSELICAの大規模機能アップ
 「低コスト」で「安心」「安全」なデータセンタサービスの提供
 を計画・推進

連結決算概況

平成22年3月期 連結決算ハイライト

(単位: 百万円)

決算年度	平成21年 3月期 (A)	平成22年 3月期 (B)	前期比 (B - A)	増減率
売上高	9,053	8,481	571	6.3%
売上総利益 (利益率)	1,804 (19.9%)	1,864 (22.0%)	59 (2.1%)	3.3%
販売管理費	1,452	1,403	49	3.4%
営業利益	352	460	108	30.9%
経常利益	356	456	99	27.9%
当期純利益	181	239	58	32.2%

売上高は、全般的な情報化投資の減少の影響により減少しました。

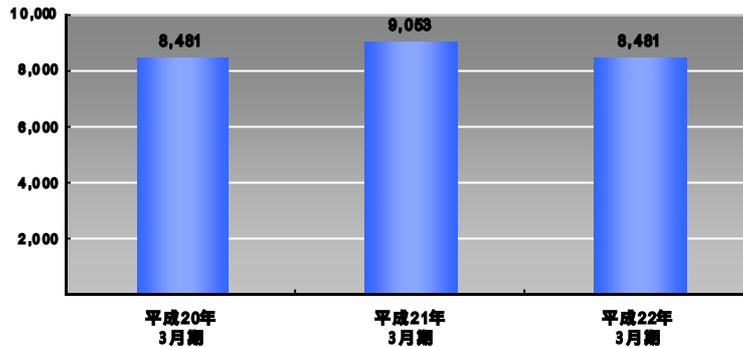
営業利益は、グループ会社間の協業体制の徹底、外注費の削減、役員報酬の減額、従業員賞与の一部カット等により増加しました。

経常利益、当期純利益は、同様に増加しました。

平成22年3月期 連結売上高の推移

売上高

(単位：百万円)



景気低迷による情報化投資減少の影響を受け、減収となりました。

平成22年3月期 事業区分別の概況

区分	内容	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
システム運用・管理等	・システム運用支援サービス ・アウトソーシング・データセンタ	2,896	34.1 %	6.6% 減
システム販売	・画像処理システム ・農圃生産管理システム ・生コン業界向けシステム等の販売 ・ネットワーク構築等のインフラサービス	2,843	33.5 %	2.4% 増
ソフトウェア開発	・製造・流通・金融業等のアプリケーションの受託開発	1,227	14.5 %	24.4% 減
機器等販売	・パソコン・サーバ及び周辺機器 ・パッケージソフト等の販売	1,514	17.9 %	2.4% 減
合計		8,481		6.3 減

「システム運用・管理等」は、データセンタ業務は低調、システム運用支援が減少。

「システム販売」は、画像、自社パッケージが減少だが、生コン」I S改正特需により増加。

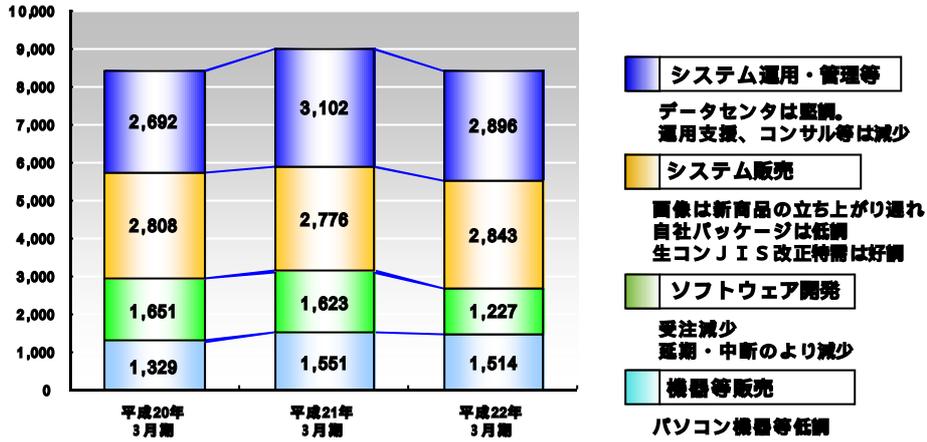
「ソフトウェア開発」は、受注減少、延期・中断等により減少。

「機器等販売」は、低調に推移し減少。

平成22年3月期 事業区分別業績

売上高

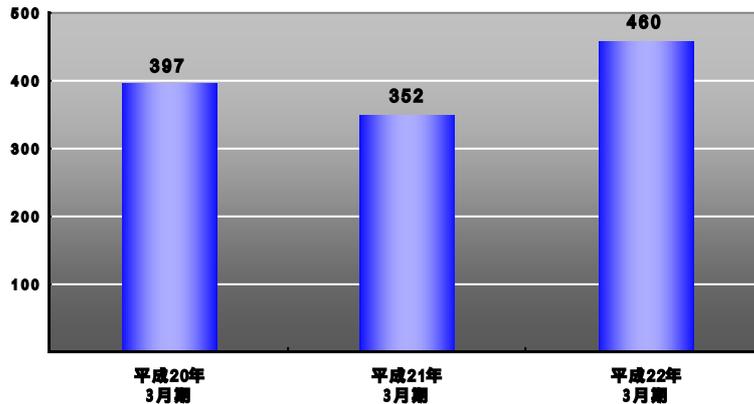
(単位：百万円)



平成22年3月期 営業利益の推移

営業利益

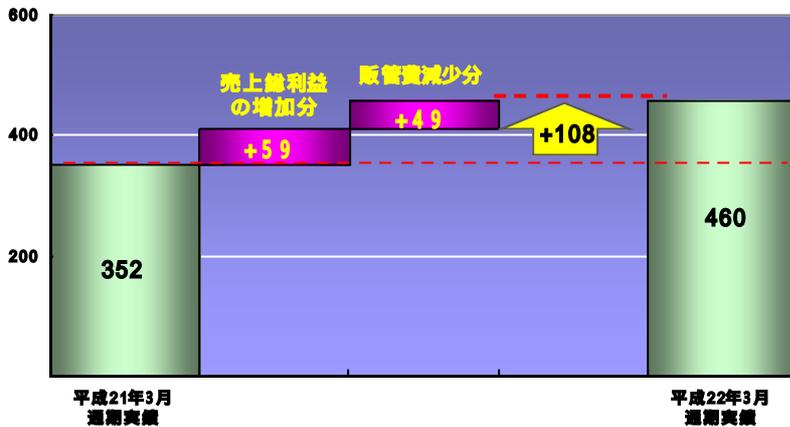
(単位：百万円)



採算性のよいシステム販売の売上高が増加したこと及びグループ会社間の協業体制による生産性の向上や外注費削減、加えて役員報酬の減額や従業員賞与の一部カットを実施したこと等により増加。

平成22年3月期 通期営業利益分析

(単位:百万円)



増加要因 . . . 売上総利益の増加 + 販売管理費の減少

平成22年3月期 連結財務諸表

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	3,797	流動負債	2,039
固定資産	1,637	固定負債	556
資産合計	5,435	負債合計	2,595
		純資産の部	
		純資産合計	2,839
		負債・純資産合計	5,435

平成22年3月期 連結財務諸表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
純資産合計 2,839 前期比 5.9%増		流動負債	2,039
		固定負債	556
		負債合計	2,595
		純資産の部	
		純資産合計	2,839
資産合計	5,435	負債・純資産合計	5,435
一株当り純資産 1,918円59銭			

今後の経営方針

12中期経営計画

IT業界の最近の動向（市場）

情報サービス産業市場は、
2008年度は、14年ぶりにマイナス成長
2009年度も、マイナス成長

情報サービス産業の本格的な景気回復は、
2011年春以降になると思われる

IT業界の今後の方向性

個別システム開発からERPが主流に
インターネットの進化・ネットワークコストが更に低価格化
クラウドが急速に進展
(10年後にはIT市場の50%との予測もある)
開発～運用までオフショアが進展
(中国・インド・ベトナム)

システム開発・データセンタ事業は大きな転換期
影響は大

当社の顧客動向

電機・素材などの大手が今後3～5年間で
成長戦略の軸足を新興国に移す
主要企業の中期計画では、売上高に占める
海外比率が5割を超す企業が相次ぐ

顧客の海外シフトは一段と加速
顧客ニーズへの対応が必須

1 2 中計の基本方針

大変革期の変化に
スピードを持ち、対応する

基本方針

1. 事業拡大し、太平洋セメントグループ以外の売上比率を引き上げる。
2. 採算性を強化する。
3. 他の追従を許さない顧客満足度を提供する。
4. 環境経営を推進する。

グループ経営施策

1. グループ会社間の事業再編
2. 資源集約・積極的投資によるビジネス転換の推進
3. 環境の整備

グループ経営施策

1. グループ会社間の事業再編

グループ会社の関係・位置付けを見直し、グループ及び各社の採算性を強化する。

グループ各社間で取り扱うシステム商品の見直しを行い、事業の効率性を向上させる。

グループ経営施策

2. 資源集約・積極的投資によるビジネス転換の推進

システム販売の事業拡大を推進する。
特に拡大市場である画像処理システムの新商品の開発、拡販を推進する。

競争力のあるデータセンタ事業を推進する。

ソフトウェア開発、機器販売及びシステム運用の連携ビジネスを強化し、サービス化を推進する。

グループ経営施策

3. 環境の整備

事業環境を整備し、生産性の向上を推進する。

環境改善に取り組む。
(平成24年度末までに平成20年度比25%のCO₂排出量削減の達成)

今後3年間のスケジュール

2010年度 積極的投資により会社を変革

2011年度 変革した会社が成果を実現

2012年度 過去最高の利益を創出

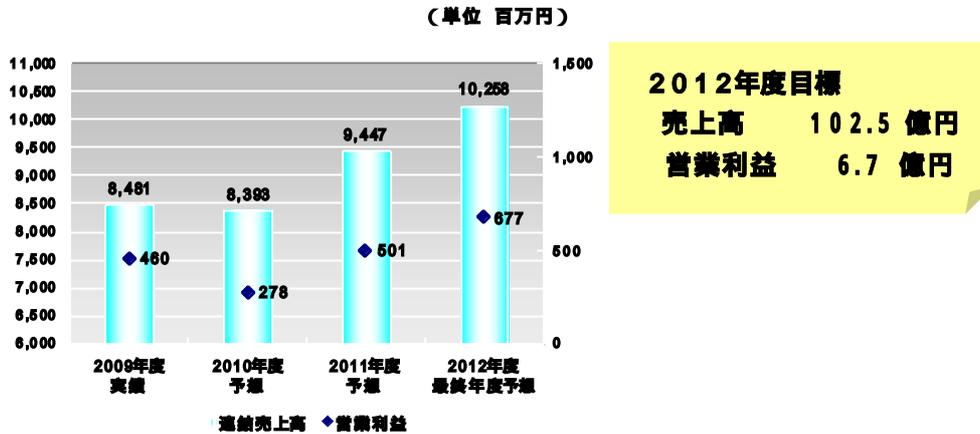
2010年度設備投資 約8億円

1 2 中計経営計画の数値目標

2012年度 連結達成目標

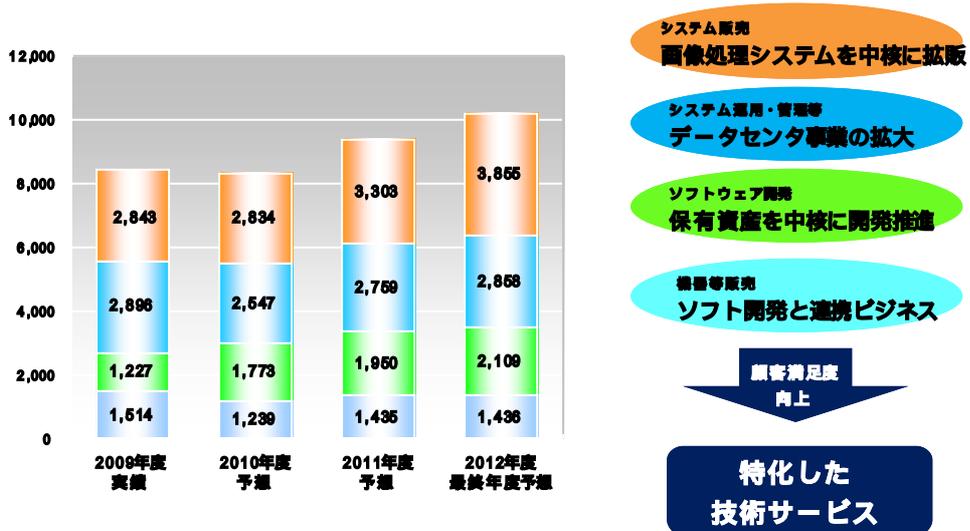
売上高	102.5 億円
営業利益	6.7 億円

1 2 中期経営計画の数値目標



- ビジネスの転換を図り、12中期経営計画達成を目指します。

1 2 中期経営計画の数値目標



見通しに関する注記事項

本資料中の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合がありますので、その点ご承知おき頂きますようお願い致します。

お問合せ先は、下記にお願いします。

- ・ パシフィックシステム株式会社 総合企画部
- ・ 電話 : 03 - 5847 - 4700
- ・ FAX : 03 - 5747 - 4710
- ・ URL : <http://www.pacific-systems.co.jp/>

